

課内回覧

財政通信 NO. 14

平成21年8月

ご無沙汰しました。財政通信です。m(_)_m

皆さんこんにちは。財政家長です。お盆あたりから、ようやく夏らしい天気になりましたね！やっぱりこうでなくちゃ！ビールが旨い！！おっと、失礼しました。皆さん、残暑に負けずに頑張ってください<(_)>と言うつもりが、つつい……

さて、皆さん、お盆はどのように過ごしましたか？市役所はカレンダーどおりの開庁ですけど、この期間は来庁者も少なく、業者さんもお休みが多いなどで若干余裕がでますよね。夏休みはとれましたか？

残念ながらわが家は、9月補正予算の追い込みでした(T_T)。議会の告示日(議案の事前配布)が7日前から10日前になった影響もあり……たかが3日、されど3日、最後の3日は大きい……今年の場合、7日前告示だと8月26日、10日前だと土日の関係もあり21日、議案庁議が19日、ということは……財政担当の家員はお盆も頑張ったということです。毎年のことではありますが二八月(ニッパチヅキ)は、興行不振の月と言われていますが、我が家では、多忙を極めるんです。

これを乗り切ると、衆議院議員&県知事同日選挙が控えています。当然、わが家でも期日前投票から後かたづけまで動員されていますから、家員の夏休みはそれからかな。まあ、世間とは時期がずれるので、行楽地も道路も空いてるかも？おっと、9月議会は2日に開会予定だった。よろしく願います<(_)>

えっ、選挙も議会も前からわかったことで、その前に休めば良かったでしょって……もちろんおっしゃるとおり。でも、なかなかこれが……

ご承知のとおり財政課は「財政グループ」「管財係」「車両管理事務所」の3つで構成されていますけど、ご多分にもれずどこも多忙でして。

「管財係」は庁舎の管理だけをしていると思っている人いるでしょ？しかしその実態は、守備範囲がものすご〜く広いのです。市内全域に点在する普通財産(市の所有地であるが、現在は行政目的で使用していないものなど)の管理をしているのも管財係なのです。こんなところにも管財係って感じです。

さらには、市の施設管理マネジメントの中心として「龍ヶ崎市公共施設の適正管理に関する規則」を作りあげ、財政健全化にも大貢献！施設管理マネジメントによる施設管理経費の削減はもちろん、市の遊休資産の払下げ(売払い)も積極的に実施。

平成20年度の土地売却収入は約2,890万円！！この夏はインターネットによる公有財産売却システムを立ち上げています。(11月に運用開始予定です。)

日常的な庁舎管理では閉庁日に行う点検・清掃なども多く休日出勤もしばしば…。そして4階に電気がつかないという人あれば…。1階にトイレが流れないという人あれば…。東に市有地の草刈りをしてほしいという人あれば…。西に土地の境界立会をしてほしいという人あれば…。今日も庁舎内外を駆け回る縁の下の力持ち。

実は、管財係の家員のうち2人は元高校球児！暑さには負けません！プレーイングマネージャーの係長を先頭に今日も出勤です。

「車両管理事務所」も市長車やバスなどの運転・管理をしているだけじゃない！車庫や北側駐車場にずらりとならんだ公用車、それを自分の愛車のように大切に管理しています。(だから車中にゴミなどが放置されていると怒り心頭！車の擦り傷を見つけるととっても悲しくなってます。)

運転のプロであると同時に、なかなかの特技を持った面々です。例えば、公用車の車庫の鉄骨柱が黄色に塗装されたのをご存知ですか？これは、車庫入力で柱に公用車をぶつける事故が発生した際に、誰かが「この柱がもっと目立てば違うのかな？」という一言を聞いた瞬間、即行動開始。その日に乗務予定がなかった家員が「家長、黄色いペンキ買っていいですか？」「いいよ、よろしく頼むよ。」

それからわずか半日、黄色の柱が出来上がりました。そのほかサウスガーデンやグリーンカーテンの整備などでも大活躍。皆さん、公用車を利用する際は、こんな彼らを思いつつ安全運転をお願いします。(公用車も大切に<(_)>>)

そんなことで、家員一同忙しい日々を送っております。そして、今後の大きな作業は、なんといっても来年度の予算編成。9月から準備して、作業は10月からです。この合間に夏休み(^o^)/家族サービスして下さい。<(_)>

(仕事より疲れる□□〇って言うている家員もいますけど…)

ところで20年度決算はどうだったのか？

一般会計は、歳入234億7,543万円、歳出229億9,927万円。事業の繰越財源を除いた実質収支(純繰越金です。)はとりあえず4億4,307万円の黒字です。

黒字は当然ですが、昨年度に引き続き、貯金も取り崩してます。「一般財源基金」と呼ばれる財政調整基金を4億438万円、減債基金を2億9,560万円。減債基金は繰上償還(将来債務を先行支払い)に充てたものですので、財源不足を解消するための実質的な取り崩しは財政調整基金の4億438万円であると考えています。

この4億438万円を取り崩さなくても、3,869万円の黒字にはなりませんが、ほぼ収支差均衡状態で、平成21年度の収入は全部使ってしまったということになります。繰

越金は翌年度の貴重な財源ですから、当初予算で見込んだ歳入の下ぶれなどに対応するため、やはり一定規模の実質収支の確保は重要です。龍ヶ崎市の財政規模なら4～5億円は必要ですから、その年度の収入は使い切らず、翌年度以降のために少しでも残しておく財政運営、貯金を崩さない財政基盤を一刻も早く確立しなければなりません。

財政家的には平成20年度の財政収支はもう少し改善すると思っていました。去年の夏までは……その後、ご承知のとおりリーマン・ショックからの「百年に一度」状態。龍ヶ崎市においても法人市民税などで3億円を超える減収(ToT)

市の収入には景気の低迷が減収に直結するものが多数あります。企業業績に大きく左右される法人市民税や配当割交付金。皆さんのサイフのヒモが固くなると地方消費税交付金も伸びませんし、新車が売れなければ自動車取得税交付金も減収するなど……□○そして、翌21年度以降やってくるのが個人市民税所得割。前年度の所得に応じて課税ですから、影響は1年遅れです。(財政家長目下最大の関心事)

現在の龍ヶ崎市の財政状況は帳簿上の黒字は維持しているけれど、歳入が足りないから貯金を取り崩すという「勘定合って、銭足らず」の状態です。

仮に今年から毎年、一般財源基金を5億円取り崩したとしたら、平成24年度で基金枯渇(T_T)、特定目的基金まで全部使っても、平成26年度……

去年の「財政通信」では「あと10年ぐらいいしか持ちません。」とお知らせしました。ところが、20年度の決算を打ってみると……イカーン基金の寿命が縮んでいる。しかも大幅にという状況。

しかし、平成20年度当初予算における財政調整基金の繰入額は5億円。対して、決算ベースでは4億円と1億円圧縮できました。リーマン・ショックが吹き荒れる厳しい収入環境下、市民の協力、皆さんの努力により、なんとか圧縮できました。<()>

この努力を継続し、少しでも収支改善をして、1年1年、基金の寿命を伸ばして行きましょう。(今の龍ヶ崎市財政にはホームランバッターも150km/hのボールを投げるピッチャーもいません。固い守備と確実なバントで何とか勝ち抜きましょう。)

次の表は普通会計決算の状況です。普通会計とは、特別会計で経理しなければならない公営事業(公営企業や保険事業など)以外の会計の合計額から重複(繰入・繰出など)するものを除いたものです。平成20年度では一般、公共用地先行取得、介護サービス、障がい者自立支援サービスの4会計が該当します。これは、全国の市町村が、統一基準で決算分析をするためのものです。これにより、決算額の内訳や各種指標の他市町村との比較が容易になっています。

普通会計決算の状況

(単位:百万円)

項目	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
歳入額	22,380	22,492	22,519	22,429	23,480
歳出額	21,730	21,951	21,895	21,819	22,997
差引額	650	541	624	610	483
繰越財源	14	29	83	114	40
実質収支	636	512	541	496	443
単年度収支	37	△124	29	△45	△53
経常収支比率	95.1	95.9	95.4	97.8	98.0

※20年度の経常収支比率は速報値

歳入・歳出額は近年と比較して大きく上昇していますが、これはニュータウン地区の小中学校などの「公団立替施行」(注1)の一部繰上償還約12億円を実施したことが影響しています。これを除くと、この5年間は大きな増減はありません。ただしこれは、合計額を比較した場合です。内容が大きく変わっています。

財政分析指標を見てみましょう。

財政家が比較分析によく用いるのが「類似団体」(注2)との比較です。こちらは、平成20年度決算の全国の集計が示されておきませんので、平成19年度決算のデータでご勘弁を。総務省が公表している「市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)」によると、全国で同じグループに属する127団体のうち龍ヶ崎市は、財政力指数24位、人件費・物件費の適正度17位、将来負担の健全度51位、公債費負担の健全度31位、定員管理の適正度15位と結構、優良団体です。(^^)v

しかし、経常収支比率は108位_ | _ | O 除夜の鐘じゃねーんだから(T_T)

この指標を簡単に説明すると、歳出のうち人件費や扶助費、公債費など毎年経常的に支出される経費に、市税など毎年経常的に収入が見込まれる一般財源がどのくらい充てられているかを示すもので、高ければ高いほど、投資的経費などに充てる財源が少なくなり財政の自由度・弾力性が失われると言われてています。

平成16年度の経常収支比率は95.1%、平成19年度は97.8%と2.7ポイント上昇。金額に換算すると、経常的な支出の増加と経常的な収入の減少を合わせるとこの3年間で4億円以上になります。ちなみに平成20年度は速報値で98.0%、約3ポイント上昇(-_-)

この原因を分析すると、歳入面では、三位一体の改革で地方交付税などの経常一般財源が減収基調、さらに平成20年度においては、景気急減速による減収が大きく影響しました。財政健全化の効果をすべて呑みこんだと言えます。

やっぱり「銭足らず」の状況です。(T_T)

一方、歳出面では、経常収支比率を更に細分化すると、人件費に係る経常収支比率は127団体中44位、同じく物件費49位、扶助費64位、公債費68位となっています。あれ？そんなに悪くないんじゃない？

ありました。補助費等121位□□○ これだ・・・

補助費等とは、市民や各団体に対する補助金や負担金などで、最も大きいものが一部事務組合に対する負担金です。特に龍ヶ崎地方塵芥処理組合の負担金のうち、清掃工場建設事業償還費負担金8億400万円が平成23年度まで続き、平成24年度から減少するものの、平成26年度の償還終了まで先は長い。市民の日常生活に不可欠な施設ですが、財政的にはグツときます。平成20年度決算では運営費などを合わせると13億4,200万円。新しいと思っていた施設も稼働から早10年を超え、これから維持補修費がかさむ時期を迎えます。でもこれも必要な経費。辛いな～

類似団体と比較して良好な部分を更に改善することも必須ですが、これは大きな効果額は見込めません。また、突出して悪い部分は何らかの固有要因があるはず。それが短期的な特殊要因であれば改善することは難しくありませんが、構造的、恒久的な要因は改善に長い期間と大変な労力が必要です。

しかし、先ほど述べたように、基金の枯渇も急激に現実味を帯びて来ており、時間がありません。どんな労力も惜しまず、一刻も早く財政健全化を達成すべく、力を合わせて頑張りましょう。そして職員一人一人の頑張り、市民の理解・協力を生むものと確信しています。

※財政用語については、市公式 HP→各課の情報→財政課→財政用語の解説をご覧ください。

財政家長のひとりごと

とは言ったものの、現実には厳しい・・・(-_-)

これまで行政はサービスを拡大しすぎた側面がある。かつての高度経済成長による収入の増加に支えられ、あれもこれもやりすぎたんじゃないかと思う。

これから、本格的な人口減少が始まる。特に生産年齢人口の落ち込みは顕著になる。いわゆる「右肩下がり」のなかでは、これまでの行政サービスは維持できない。

公共を全て「官」が担うのは限界にきている。「民」への移管が必要だ。しかし一朝一夕にできるわけではない。緊急避難的な措置も視野に入れなければ・・・

おっと、暗い話ばかりじゃいかん！経常収支比率が改善すれば龍ヶ崎市は優良団体じゃないか！！19, 20年度に続き、21年度も高金利で借りた地方債の借り換えができるから、利子が減るぞ。国だって、景気は底打ち、GDPも回復していると言ってるんじゃないか。人件費だって、職員数の削減により大きな効果が現れている・・・

よ～し、なんとか乗り切るぞ！！ それでは、次回また(^o^)/～

注1 公団立替施行

公立の小中学校の施設整備などは市町村が実施します。しかし、龍ヶ崎ニュータウンなどの大規模開発に際して、市町村が整備することが困難な場合、旧住宅都市整備公団(現都市再生機構)がその資金を立て替えて事業を施行し、後年度において分割して支払う(施設を取得する)制度。金利はその時点の建設利息(市町村が国から資金を借りる際の利息と同程度)かつて年利が7%を超える時期もありました。

平成20年度は、年利6%以上のものについて、都市再生機構に対し一括償還(一括取得)を行いました。その財源として市債を発行しています。現在の借入年利は1.5%程度ですので、将来の支払利息の軽減に大きな効果がありました。

注2 類似団体

全国の市町村を人口及び産業構造等により35グループに分類した結果、同じグループに属する団体。